



## 「あたり前をつくる税金」

大田区立大森第十中学校 三年 石井 颯馬

私は、今まで税についてまったく無関心であった。むしろ、なぜ税金など払わなくてはいけないのだろうとマイナスな考えを持っていた。そのような状態の私が税金に興味を持ち始めたのは、中二の秋にあった職場体験である。

私はその職場体験で「東京都建設局第二事務所」という所に行った。その業務は、私たちが普段使う「道」や「河川」、「貯水地」などの管理や整備などである。

では、この「道」や「河川」、「貯水地」の管理や整備と税金はどのような関係があるのだろうか。答えはただ一つ。これらの管理費や整備費用は税金で賄われているのだ。このことを耳にした時、私の心は驚きで満たされた。私たちは普段道を歩く時に、このようなことを考えていたのだろうか。

このように、私たちは「税金」に「あたり前」という恩恵を受けているのだ。他にも、私たちは「税金」に様々な恩恵を受けている。

例えば、小中学校のなか。いつも何気なく使っている、教室の机や椅子、黒板、授業で使うパソコンや教科書など。今あげた例は、小中学校

で使われている税金の例のほんの一部にすぎない。今日も中学校では生徒一人あたりに年間百一万五千円もの税金が使われている。

これを聞いて驚く人も少なくないだろう。私たち中学生の登校で使う道も、授業で使う黒板も、もちろん部活で使うバスケットボールも。これら全ては税金によってもたらされた「あたり前」である。今、私たちが安心して暮らせるように、私たちを守ってくれている警察署や消防署も税金が与えてくれた恩恵である。

では、もしも税金がなくなったら。人々に歓喜の渦が巻き起こるかもしれないが、先にあげた税金が使われている物がすべてなくなる。

税金がなくなったらどうなるのか。少し怖い話をしよう。昔、カリフォルニア州のある街で税金を減らす法律が出来た。最初の頃は人々は喜んだかもしれない。しかし、税金が少なくなり警察官に給料が払えなくなってしまう。するとどうだろう。警察官のほとんどが解雇。税金で経営していた病院も閉鎖。犯罪も病人も増える始末だったそうだ。

この話を聞いて私は、「税金」は大切なんだ、今私たちが安心して暮らせていけるのは「税金」のおかげなのだ、ということがよく分かった。

私たちは「税金」の中にいる。「税金」がつくる「あたり前」の中にいる。私は、「税金」について色々なことが分かった。私たち中学生が納める税といえば、消費税ぐらいしかないが、「幸せ」のため、「あたり前」のために納めたいと思う。いつか、日本全国民が、この「あたり前」のために税金を納めているのだと思ってくれることを心から願う。